

中国女性通訳が失跡

10日余り手配 自殺の恐れも

親善のため一月中旬、来日した中日友好協会の中国人女性通訳が二月中旬、仙台市内のマンションから失跡したまま所在不明になっていることが二日までにわかった。中国大使館、日中友好協会宮城県本部から捜索願が出されておられ、宮城県警と警視庁は、失跡後、既に十日余りたっても手配かりがつかめておらず、自殺の恐れもあるため全国に手配、行方を捜している。

失跡したのは中日友好協会職員で通訳の張麻秋さん(四〇)。

警視庁などの調べによると、張さんは一月十五日、日中友好協会長野県本部の招きで来日、羽田空港に到着した。張さん一行は中日友好協会理事の男性一人を含む三人。すぐ長野県へ直行、現地で親善を深めた後、二月上旬いったん東京を訪れ、都内などを参観、同協会福島県本部の招きで、福島市に向かった。

張さんは十九日深夜から翌二十日早朝の間に、三人で滞在していた仙台市内の日中友好協会宮城県本部が借りているマンションから姿を消し、行方不明となった。

失跡時、張さんはハンドバッグ一つを持って出ており、衣類や中国へのお土産はマンションに置き、残された。

関係者の話では、失跡四日目の二月十四日午後八時、郵便局の消印が知人のA氏(四七)やB氏(四七)の女性秘書を通じて自筆をほめかす手紙が送られているが、原因については、政治的書信はないようである。ナノに包まれている。

張さんは身長一六〇センチ、面長で髪はパーマ。眼鏡はかけていない。日本語はペラペラ、服装は日本で手に入れたワンピース、コート、ハイヒールを履いており、顔つきなどは日本人と変わらない。

不明のタクシー運転手

他殺体で池に浮く

【大阪】一月中旬大阪府和泉市内、タクシーを放置したまま行方不明になっていた堺市高層ビル一、個人タクシー運転手高元賢(四二)が、和泉市高元賢町(四)の通称「池」に男の水死体で浮かんできた。大人が見つけ、和泉警署に届け、府警捜査一課と同署で調べたところ、着衣などから一月十八日に

【大阪】一月中旬大阪府和泉市内、タクシーを放置したまま行方不明になっていた堺市高層ビル一、個人タクシー運転手高元賢(四二)が、和泉市高元賢町(四)の通称「池」に男の水死体で浮かんできた。大人が見つけ、和泉警署に届け、府警捜査一課と同署で調べたところ、着衣などから一月十八日に

仕事に出たあと、同市府中町の市道わきにタクシーを乗り捨てたまま、行方不明になっていた高元賢さん(四二)が、和泉市高元賢町(四)の通称「池」に男の水死体で浮かんできた。大人が見つけ、和泉警署に届け、府警捜査一課と同署で調べたところ、着衣などから一月十八日に



が遺留品付で高元賢さんを探し、貯水池でタクシーを運転して高元賢さんを探した後、交通の便のいい同市府中町タクシーを放置して逃げたため、周辺の不審者のリストアップを急いでいる。

高元賢さんの遺体解剖は同日午後、近畿大医学部で行われた。死体には三、四カ所の皮下出血があったが、脳に損傷がないなど致命傷はなく、死因は不明。死後約四十日、肺に水が入っていたが、生中身がどうかどうか断定できず、さらに詳しい検査を行う。

燃料輸送手問の

保内中に不時着米軍ヘリ 天候不良と燃料切れのため、一日夜、西和郡保内町川之石、保内中学校運動場に不時着した米海軍用ヘリコプター三機は、米海軍の岩国基地からの燃料輸送に手配り、離陸は三日午前中になる見込み。

軍用ヘリコプター三機はマクドナルド大佐ら六人が乗り込み、沖縄の嘉手納基地から岩国基地に向かっていた。ヘリコプターに使用される燃料は特殊なものだけに、岩国基地からの空輸を計画したが、大型ヘリコプターが保内中に着陸出来ないことがわかった。このため、岩国基地からフェリーを使ってタンクローリー車を松山空港に送り込んだ後、三日朝、岩国基地から松山空港まで大型ヘリコプターで燃料を空輸。タンクローリー車に移し、保内中まで運ぶ予定になっていたが、軍用ヘリコプターの離陸は早くて三日午前四時ごろになる見込み。

大きな人を拒んだ船底の穴

死闘76時間 転覆船から奇跡の生還の田口さん会見

もっと船内捜してくれたら...

【福江】長崎県大分の長崎県五島沖で転覆、十二人が死亡、四人が行方不明となった転覆した船「船底の穴」(一九八六)の船主船長田口さん(五九)が、船内底から奇跡的に救出された福岡市中央区清川三ノ一四、大工田口太さん(五九)は二日後、入院先の福岡市内の五島中央病院で初めて記者会見した。

「船底の穴」は、船内をくまなく捜索してくれていたら、

「船底の穴」は、船内をくまなく捜索してくれていたら、

「船底の穴」は、船内をくまなく捜索してくれていたら、

もよぎる次のように話した。

天候は悪かったが、昔は「せつかく集まったのだ」と話し、結局十七日午前三時すぎに出発した。響いたが同七時ごろ、大波が来て目が覚めた。間もなく次の波が「ドーン」と来て船はあつという間に転覆。同時に船内の電気が消え、十人いた前部客室で叫び声がし、一時パニック状態になった。阿部晴見さん(五九)が脱出したあと、金堂守田さん(五九)も脱出で脱出が試みされた。しかし、水圧でドアが開かず出られなかった。船内は、海中から撥た空を通過して入ってくる光が差し込んでいた。

三、四時間して船底部分の穴を見つけた。徐々に浸水してきたので自分が最初に降り込んだ。穴は小さく、体の大きな人は入りこめなかったようだ。響いて、息苦しくなり、十七日夕、目の前がだんだんかすんでやがて意識を失った。気がついたら病室で横になっていた。不思議と死ぬという気持ちには起きなかった。穴から頭だけを出した金堂さんと「生きて帰れたら二度と釣りに行かない」とほの暗い明かりの中で誓った。

死んだ人の事を考えると眠れない夜が続いた。阿部さんが発見された時点(十八日朝)で、船内を

外国貨物船 同士が衝突

【中島町】一人不明に 二日後七時四十分ごろ、温泉郡中島町田利島の西約五、五キロの伊予灘で、パナマ籍の貨物船「サンシン」(三九九)と、韓国籍の貨物船「シヨウガ」(九九九)が衝突した。



音楽評論の 蘆原英 さん(五九)が、船内をくまなく捜索してくれていたら、

「船底の穴」は、船内をくまなく捜索してくれていたら、

